

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第312号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2011.06.10（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1191 部\*\*\*\*\*

【山崎農業研究所総会・総会記念シンポジウムのご案内】

◎日時：2011年7月23日（土）13：00～

◎場所：NTC インターナショナル（株）5F会議室

東京都新宿区四谷3-5 不動産会館ビル5F

東京メトロ丸の内線四谷三丁目駅下車

A3出口より四谷方面へ50m

コンビニ「サンクス」隣

◎次第

1、総会：13：00～13：30

2、シンポジウム「東日本大震災と農業・農村（仮題）」：13：30～17：00

第一部 被災地の現場から

1)「農地、農業施設被害（仮題）」…山崎農業研究所幹事・渡邊 博

2)「福島一希望への道筋を探りながら」…大地を守る会・戎谷徹也

第二部 風評被害を切る

1) つくば市「みずほ村直売所」の実践（交渉中）

2) 「未定」

3、懇親会：17:30～

◎参加費：500円（資料代等）、懇親会費：4000円（予定）

※会員外の方の参加を歓迎いたします。

※会場選択の都合がございますので、7月4日ごろまでに出席のご予定を

事務局・益永までご連絡ください

TEL.03-3357-5916（益永） FAX.03-3357-3660

e-Mail: [y.masunaga@ntc-c.co.jp](mailto:y.masunaga@ntc-c.co.jp)

【NEWS】

辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）が  
『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』の書評を書いて下さいました。

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

□ 目次 □-----

<巻頭言>

アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える 塩谷哲夫

<時代を見る眼> この頃、眼につく“風評”被害のこと 松坂正次郎

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

<編集後記> 「節電発電所」——ピンチをチャンスに

<85歳からのメッセージ> 休載のお知らせ

---

<巻頭言> アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える

---

地震・津波は天災である。しかし、それがきっかけになったとは言え、東電福島第一原発の「事故」は犯罪的人災である。あれこれと東電や政府の非を糾弾することはできるが、とにかく今は、なんとしても原発の現場において、その暴走を押さえ込んでもらわなければならない。

この事態を契機に原発の「安全神話」は底が割れ、国民世論も反原発、脱原発へと急速に転換しつつある。菅首相も日本の「エネルギー基本計画」を見直し、基幹的電源の50%を原子力に依存するという計画を変更して、風力や太陽光など自然エネルギーの活用を推進すると言明せざるをえなくなった。日本の国家的プロジェクトとして、科学技術、産業界の総力を挙げて、循環型社会を支えるエネルギー技術の開発を進めてほしい。

ところで、自然エネルギーの発電については、その出力がお天気任せで変動して不安定であることから、いったん蓄電池に溜めることが不安定解消のキーテクノロジーだといわれている。確かにそのとおりだろうと思う。

でも、ちょっと待って！ 太陽エネルギー利用は電力だけではない。現在、太陽エネルギーを最も有効に地球に留め、きわめて安全に、そして安定して人間生活に利用されているのは植物の光合成による有機物、バイオマスへの転換である。それを、人間は、食料に、燃料に、その他さまざまな資源として活用している。

しかし、一年間に地球に降り注ぐ太陽エネルギーは  $5.5 \times (10 \text{ の } 24 \text{ 乗})$  ジュ

ールであり、その約半分が地表に届き、光合成によって植物に吸収される太陽エネルギーはその0.2%で、人類の食糧エネルギーとなるのは、またその100分の1の0.002%に過ぎないという。

この利用効率を高めたい。そのための一番有効な方法は、あらためて何か特別な植物などが必要なわけではなく、土壌の生態系を健全にして農地を再生し、その生産力を高めること、そして農業を基幹産業として大事にすることである。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<時代を見る眼> この頃、眼につく“風評”被害のこと

---

小生の俳句、と言うよりは“狂句”と言わんか、或いは“病句”と言われるかも知れませんが、「農政も農家も病める五月（さつき）哉」です（電子耕 No. 310 に掲載済）。いまだ寒暖の移りが不確かで、衣服の変えもままならぬ情況にあり、これは“老齡”の故かとも考えておりますが、かくて「寢床にも土竜（もぐら）の如く潜りけり」と成り果て、「うつら、うつら早春の夢うつらうつら」といった具合です。

こう書くと、何の冗談かといわれそうですが、いま巷で話題になっている“風評”のほうは、それこそ冗談では済まされません。“風の便り”といった温りはなく、悪い評判が、強い風の勢いに乗って広く、遠くまで広がり、風評の“現地”とされる地域や生産者が、思いもかけぬ被害を受ける立場に追い込まれる——それが風評というものだと考えます。

言わずと知れた福島原発の津波による被害も放射性セシウム、その他の害毒が拡散し、その波及地域の生産物——ことに農林水産物の生産だけでなく、販売にも徹底的なダメージが及ぶ。風に乗るだけでなく、荒れ狂う波浪となって痛めつける。いわば、かぜのように通る道を、広い帯のように害毒をもたらすものです。

結果的には生産、流通、販売、消費を含めて“国民大衆”が悪影響を蒙ることになり、例えば、米国モンタナ州ビッグスカイの朝日紙・尾形記者の報道に

よると（5月20日付）、同地で開かれたアジア太平洋経済協会議で「各国が日本製品の輸入規制強化することは“風評被害”を拡げる恐れがある」とした議長声明で、「世界貿易機関（WTO）の取り決めにそぐわない処置」と述べたと伝えてあります。

松坂正次郎

山崎農研会員 コラムニスト

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.125』が発行されました。

今号では、東日本大震災を特集しています。

研究所ホームページから、目次を見ることが、記事の一部のダウンロード（無料）ができます。また、ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

<http://www.yamazaki-i.org>

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

東日本大震災と農業・農村復興……安富六郎

〔特集〕 どう向き合うか 東日本大震災

・被災地を歩いて一災害の被害者から復興の当事者へ……小泉浩郎

・東日本大震災による農地と農業インフラの被災状況……渡邊 博

・土壌の放射能汚染をどう考えるか

一現場での対応を中心に……編集部・森敏

・エネルギーは社会の根本問題……関 曠野

・震災から森と住まいの文化を考える……大内正伸

・大震災と住民自治……鳥越皓之

・「持続型地域」建設ビジョンをどう描くか……千賀裕太郎

・引き受けるものと選択するもの……宇根 豊

---

<編集後記> 「節電発電所」——ピンチをチャンスに

---

「原発の安全神話」がくずれてから3か月になろうとしている。この間、メディアが原発を取り上げる姿勢は大きく変わりつつある。テレビや新聞といったマスメディアは「原発の安全神話」に一役も二役も買って来た。しかし事態が深刻化するなか、最近では、「脱原発」という言葉もニュース番組のなかでふつうに聞かれるし、週刊誌などでは原発批判の記事が目白押しである。

これまでタブー視されていた原発や電力の問題がオープンに語られるようになって、さまざまなアイデアを見聞きする機会もふえてきた。最近目にした言葉でこれはヒットだと感じたのが、「節電発電所」だ。環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也氏はこう言う。

「私の提案は『節電発電所』です。企業や家庭を含む社会全体が節電に積極的に取り組むことで、仮想の発電所が生まれ、電気をまかなうことができる、という考え方です。『節電発電所』が実現すれば、実に1000万kW以上の効果が見込めるので、この夏を乗り切れるのはもちろん、東京電力であと2基動いている原発を止めても問題ありません」

(飯田哲也「持続可能なエネルギーで暮らすには」うかたま、2011 vol.23)

エネルギーというと、つくることに意識がいきがちだが、つかわないことの可能性ももっとあるのではないか——そんなふうに考えることを、この「節電発電所」という言葉は後押ししてくれる。ピンチをチャンスになどと軽々しく言うてはならないのかもしれないが、いまの議論の風通しのよさを見逃すわけにはいくまい。

2011年06月09日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<85歳からのメッセージ>

---

「85歳のメッセージ」は、作者の都合により、今回はお休みとさせていただきます。

原田勉

<http://nazuna.com/tom/>

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』  
(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん(半農半X研究所、執筆者)

ブログ:半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう!

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

---

◎投稿アドレス変更のお知らせ

---

電子耕への投稿アドレスは、117号から発行人の変更に伴い、

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

-----  
次回 313号の締め切りは06月20日、発行は06月23日の予定です。

---

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

---

書名:岩波アクティブ新書45『メールマガジンの楽しみ方』

著者:原田 勉 定価:735円 発行日:2002年10月4日

発行所:岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 312 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2011.06.10（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*